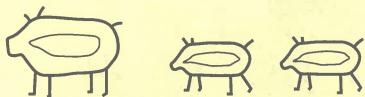


# 天理市埋蔵文化財センターだより Vol.26



## 平成30年度夏の文化財展

平等坊・岩室遺跡発掘100年

## 弥生のムラが変わるとき



平成30年  
6月30日(土)～  
7月22日(日)

### ◎平成30年度 夏の文化財展

平等坊・岩室遺跡発掘100年

### 弥生のムラが変わるとき

平成30(2018)年6月30日(土)～7月22日(日)

※ 9:00～17:00

※ 月曜日、7月16日(月・祝)、17日(火)は休館

会場：天理市文化センター1階展示ホール

天理市教育委員会文化財課がこれまでに実施した市内の遺跡の発掘調査により、多くの成果が得られてきました。それらの成果の一部について、平成18(2006)年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」では2年ぶりに市内最大規模を誇る弥生時代集落である、平等坊・岩室遺跡を取り上げ、集落が成立した後の、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのムラの様子について紹介します。

### ◎文化財講演会と展示解説

平成30年7月22日(日) 14:00～16:30

天理市文化センター1階展示ホール

平等坊・岩室遺跡発掘100年 弥生のムラが変わるとき

平等坊・岩室遺跡は、市内最大規模を誇る弥生集落遺跡です。最初の調査は、大正7(1918)年におこなわれ、これまでも36次に及ぶ発掘調査を実施しています。

平成30（2018）年は第1次調査がおこなわれて100年目になります。今回はこれを記念して、これまでの発掘調査を振り返り、弥生時代後期から古墳時代前期のムラの様子を中心に紹介します。



### 前期から後期の環濠（第8次調査）

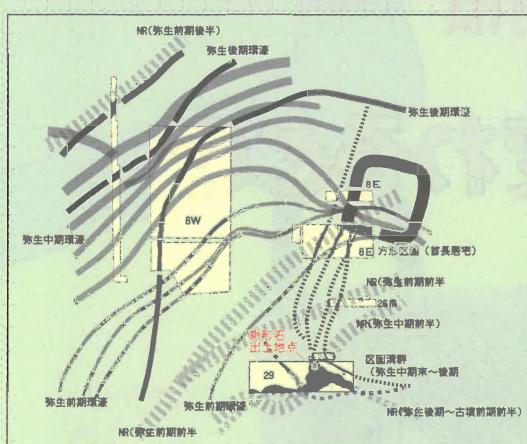


### 環濠に棄てられた土器（第8次調査）



調査地位置図

## 平等坊·岩室遺跡



平等坊・岩室遺跡は平等坊町と岩室町に所在し、布留川によって形成された扇状地の末端に立地しています。弥生時代の全期間を通じて環濠集落が営まれ、奈良盆地東部最大の拠点集落として発展しました。そして弥生時代後期後半には、集落内の微高地を溝で方形に区画する特別な場所(方形区画)が出現します。このことは集落内における首長階層の存在を示し、弥生社会の変革を示すものと考えられます。その後環濠集落終焉後の古墳時代に移行しても集落は続き、方形区画も古墳時代中期に埋没するまで集落内に存在していました。古墳時代以降も、断続的ですが遺構や遺物が見つかっており、人々の生活が営まれていたことがうかがえます。

## 天理市内の主な弥生遺跡

おさでら  
馬主・遺跡

櫟本町に所在し、東大寺山丘陵の西山麓に位置する遺跡です。これまでの発掘調査から、弥生時代中期後半に集落が大きくなつたことがわかつています。その後は後期後半から古墳時代前期にかけて再び活発になるようです。第10次調査では、共にから女性の土火葬の骨が見つかっています。

第10次調査では、井戸から女性の上半身の骨が見つかりました。  
せんざい

## ◆前栽遺跡

平等坊・岩室遺跡の東側に隣接しており、縄文時代晚期の突堤文土器の出土がみられる遺跡です。遺跡の西部では弥生時代中期の方形周溝墓が5基確認されており、これらが平等坊・岩室遺跡の墓域に関わると考えられます。

## ◆和爾森本遺跡

天理市北部に広がり、弥生時代中期から古墳時代にかけての遺跡として知られています。集落が本格的に営まれるのは弥生後期後半になってからで、これまでの発掘調査から多くの遺構と遺物が確認されています。

かいち  
◆海知遺跡

海知町と遠田町に所在する遺跡で、初瀬川流域東側の微高地上に位置しています。弥生時代前期の遺構や遺物がみられ、弥生時代前期の集落であると考えられます。

◆石上銅鑄出十地  
いそのかみ どうたく しゅつど ち

石上町東方の豊田山丘陵で、明治16年（1号銅鐸）と明治17年（2号銅鐸）にいずれも開墾中に銅鐸が発見されました。



### 出土した人骨（長寺遺跡第10次調査）



## 1・2号方形周溝墓 (前裁遺跡第3次調査)



### 供献された土器（前栽遺跡第3次調査）

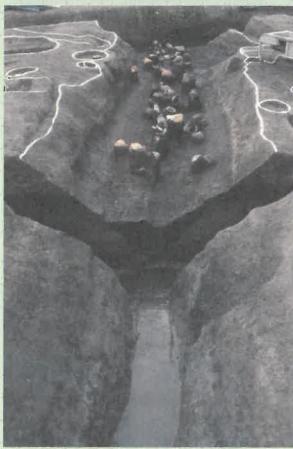
## ムラの変遷



ムラを巡る環濠（第8次調査）

集落のはじまりは、縄文時代晚期の頃までさかのぼります。弥生時代前期になると、河川によって形成された沖積地上に小規模なムラが形成され、前期後半には環濠が成立します。弥生時代中期に入ると点在していたムラは統合され、集落中央の微高地上に居住域を形成しました。それに伴い多重環濠が形成され始めます。中期後半になると集落域は最大となり、多重環濠が成立しました。そして中期の末になると、後に出現する方形区画の前身と考えられる溝が集落内微高地上に掘削されます。

## 弥生時代後期のムラ



弥生後期の環濠（第8次調査）

弥生時代後期になると、集落の様子が大きく変貌します。弥生時代中期の環濠が埋められ、方向を変えた環濠が新たに掘削されました。ムラの領域は大きく北側に広がり、環濠同士の間隔も広くなります。環濠はこれまでと同様に断面が逆台形の形状をしていますが、居住域に隣接する内側と一番外側の環濠のみ意図的に断面をV字形に掘削しています。



環濠の断面（第8次調査）



環濠に捨てられた土器（第8次調査）



絵画土器出土状況（第11次調査）

## 方形区画の出現と環濠集落の終焉



方形区画（第8次調査）

弥生時代後期後葉には、ムラの中の微高地を溝で方形に区画する特別な場所が現れます。方形区画の出現です。この方形区画はムラの中に首長階層が出現したことを示すもので、弥生社会の変革により現れたと考えられます。その後、方形区画は環濠集落終焉後の古墳時代前期のムラまで残り、古墳時代中期の頃に完全に埋没したようです。

弥生時代後期末になると環濠が埋まりはじめ、最終的に古墳時代初頭には完全に埋没します。そして環濠集落は終焉を迎え、時代は古墳時代へと移っていきました。

## 古墳時代前期のムラ

古墳時代へと移行したムラは、引き続き方形区画が存在し、盆地東部の交流拠点として営まれました。これにより、外来の影響を受けた土器の出土が多数見受けられ、外の地域との交流が行われたことがうかがえます。また方形区画の南西では、古墳時代前期の土坑が見つかっています。土坑には土器と共に、下半部を打ち欠いた鍬形石が埋納されていました。鍬形石は本来古墳の副葬品であることから、何らかの儀礼に伴う埋納行為が想定されます。



鍬形石埋納土坑（第29次調査）



出土した鍬形石（第29次調査）



住居址（第8次調査）

## その後ムラ

古墳時代中期になると方形区画は埋没し、集落の規模は縮小します。集落の中心地はやや東に移り、古墳時代後期まで集落が営まれました。

古墳時代以降になると、遺跡の北西部で飛鳥～奈良時代の瓦や土器等の遺物がみられる他に、掘立柱建物の遺構が確認されています。その後も平安・室町・江戸と断続的ですが遺構や遺物が見つかっており、平等坊・岩室遺跡は現代に至るまで人々の生活が営まれた場所であると考えられます。



飛鳥～奈良時代の建物跡(第8次調査)

# 出動！発掘現場レポート!!

## 平成29年度下半期の調査

天理市教育委員会は平成29(2017)年度下半期に発掘調査を3件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

### ■成願寺遺跡第23次調査

農業用倉庫建設に伴って萱生町で発掘調査をおこない、古墳時代の溝・土坑のほか、周辺の地割に伴う中世の落ち込みを検出しました。この地割がヒ工塚古墳の周濠を反映するとの見方もありますが、近年の調査成果と合わせその可能性は低くなりつつあります。

### ■萱田遺跡第2次調査

個人住宅建設に伴って二階堂北萱田町で発掘調査をおこないました。中世末～近世期の遺物が少量出土しました。調査地付近は西・南方に広がる中世末～近世の集落域の縁辺に相当するようです。

### ■平等坊・岩室遺跡第36次調査

宅地造成工事に伴い、平等坊町内で発掘調査をおこないました。調査地は第28次調査の西隣にあたり、28次調査で検出した自然流路の続きを検出しました。流路からは弥生時代中期から奈良時代までの遺物が出土しています。

平成29年度の調査成果は  
今年度冬の文化財展で  
展示するよ！



■平成29年度下半期の調査遺跡



■平等坊・岩室遺跡第36次調査  
調査区全景（北から）

## 田原本町 唐古・鍵史跡公園

日本最大級の弥生集落遺跡が史跡公園になりました。遺構展示情報館では、発掘調査で見つかった大型建物跡の柱穴の実寸大剥ぎ取り模型を展示しています。

- ◆住所 〒636-0226 磨城郡田原本町大字唐古50-2
- ◆開園時間 9:00～17:00 ◆定休日 毎週月曜日(祝日の場合は次の平日)  
(入園時間は9:00～16:30まで) ◆TEL: 0744-34-5500  
(遺構展示情報館内公園管理事務所)

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.27 は、平成30年度冬発行予定です。  
お楽しみに！！

発行◆天理市教育委員会 文化財課  
天理市埋蔵文化財センター  
〒632-0017 奈良県天理市田部町441-2  
Tel・Fax 0743-65-5720  
印刷◆富光株式會社